

ご あ い さ つ



会 長 村 上 幸 男



理 事 長 池 上 弘

地域の皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

おかげをもちまして、当金庫は、明治42年5月の創業以来、本年で115年目を迎えることができました。この間、一貫して地域金融機関としての使命を十分に認識し、地域の皆さま方にご支援をいただきながら事業の拡大、経営体質の強化に努めてまいりました。

今年度も当金庫へのご理解を一層深めていただきたく、ディスクロージャー誌「2024 にししんのご案内」を作成いたしましたので、ご高覧いただきますようお願い申し上げます。

はじめに、年初に甚大な被害をもたらした能登半島地震につきまして、被災されました多くの方々に心よりお見舞い申し上げます。当金庫といたしましては、義援金や物資の提供等、微力ながら被災地域の支援に努めるとともに、地震により直接・間接的に影響を受けられた事業者への金融面での支援につきましても、引き続き積極的に対応してまいります。

さて、わが国経済は、コロナ禍において抑制されていた経済活動の回復に伴い、緩やかに持ち直しているものの、中国の景気減速やウクライナ情勢の長期化、中東地域における紛争、日本銀行の金融政策の動向など、様々な不確実性を内包しており、先行きは不透明な状況に置かれています。

地域経済においては、少子高齢化や人口減少などの構造的な課題を抱えるなか、原材料コストの価格転嫁の遅れや人手不足、コロナ融資の返済の本格化等の影響が懸念されるなど、中小企業を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が続いています。

金融機関においては、個々の企業が抱える経営課題の把握に努め、企業のライフステージに応じたきめ細やかな経営支援に取り組むことが求められています。

このような経済・金融環境のなか、令和5年度、当金庫では、金融仲介機能を強化し、適切な業務運営及び経営効率の向上に取り組んでまいりました。また、人員配置の効率化による営業力の強化、資産の健全化を目的とした不良債権処理、リスクを考慮した効率的な余資運用を実施いたしました。

令和6年度からは、地域社会、お客さまの発展に向けチャレンジしていく新経営3か年計画「にししんチャレンジ2024」がスタートいたします。コロナ禍を経て、多岐に亘って社会・経済環境に変化が生じるなか、これまで以上にお客さまに寄り添い、お取引先の持続可能性の確保に向けた支援、地域のお客さまの豊かな生活の実現に向けた支援に覚悟を持って取り組んでまいります。また、安定した収益力と将来に亘る健全性の確保に向けて、強固な組織、営業体制を整え営業基盤の強化を図るとともに、職員エンゲージメントの高い組織態勢を構築し、金庫一体となった組織運営に取り組んでまいります。確固たる経営理念のもと、地域、お取引先、そして職員の成長、幸せのために行動し、地域になくてはならない信用金庫として存在感を発揮して、地域社会の課題解決と繁栄に向けてチャレンジしてまいります。

引き続き厳しい経営環境が予測されますが、“にししん”は一丸となり、役職員一人ひとりが持てる力を最大限発揮して、地域の活性化に貢献してまいり所存でございます。

今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう心からお願い申し上げます。

令和6年7月

会 長 村 上 幸 男
理 事 長 池 上 弘